



ごっこ遊びは奥が深い素敵な遊び

園長 川嶋佳恵

入園から2ヶ月が過ぎようとしています。登園時に保護者の方から離れ難かった子どもたちも、門の所で園長の私と挨拶をすると、保育室の前まで小走りに駆けていく様子が見られるようになりました。「今日も、〇〇して遊ぼう。」「今日は、どんな楽しいことがあるのかな。」「今日は、〇〇ちゃんと一緒に遊ぼう。」等子供園での生活への期待や喜びが大きくなったということですね。

5月の「親子で遊ぼう」では、子どもたちと一緒に製作をしたり、ふれあい遊びに参加したりしていただきましてありがとうございました。子どもたちも自分たちの遊び場である子供園に大好きなお父さん、お母さんが来てくれ、一緒に遊べたことがとてもうれしかったようです。私たち職員も子どもたちと保護者の方の笑顔があふれるかけがえのない素敵な時間となったことを心よりうれしく思っております。活動後に書いていただいたアンケートでも「子どもたちの楽しい園生活がよく分かった」、「親子で触れ合って楽しむ貴重な時間になった」等の感想をいただきました。中には、お子さんが「親子で遊ぼう」での遊びや活動をとて気に入り、保護者の方を相手に「親子で遊ぼう」ごっこを繰り返し楽しんでいるというような感想も複数寄せられていました。子どもたちは、楽しかった経験をすぐに遊びにつなげるスペシャリストですね。

ごっこ遊びといえば、高円寺北子供園でも毎日様々なごっこ遊びが繰り広げられています。そう組で最近盛り上がっていたのは、お寿司屋さんごっこやピザ屋さんごっこです。お寿司屋さんは回転ずしにしたいと言い、回転するお寿司をどのようにすれば実現できるのか、試行錯誤しながら自分たちなりの最適解を見出して、注文するとそのお寿司が流れてくる楽しいお寿司屋さんになりました。くま組の子どもたちはよく猫になりきっておうちごっこを楽しんでいます。また、空き箱で作った動物たちをペットにして遊ぶうちに、その動物たちが病気になって病院に連れていく流れから病院ごっこが始まり、聴診器を当てたり、注射をしたりして遊んでいます。うさぎ組の子どもたちは、絵本を並べて「絵本屋さんです。」と絵本屋さんごっこ楽しんだり、最近うさぎ組に仲間入りした赤ちゃんのお人形を抱っこしたり、ミルクをあげたり、段ボール箱で作ったベビーカーでお散歩に出かけたり…それぞれの学年の発達に応じて程度は違いますが、どの学級でもこれまで経験してきたことや見てきたことを毎日何かしらのごっこ遊びとして再現し、何かの役になりきって動いたり、役に合った言葉を使って会話を交わしたりしながら楽しんでいます。子どもたちにとっては、何か特別のイベントだけでなく何気ない日常生活もすべて遊びの素になり、模倣の対象になります。このように考えると、日常生活の中で、子どもたちによく見られている大人は、行動や言葉のやり取りを丁寧に行う必要がありますね。

さて、私は、いろいろな場面で、「遊びの中の学びが大事」、「自発的な遊びの中で、人格形成の基礎を培っていきます。」とお伝えしていますが、「遊びの中の学び」は実際に目に見えるものではないため、分からないと思われる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。ここでは、子どもたちが取り組むごっこ遊びに焦点を当てて、その遊びを通して、どのような学びがあるのかということについてお伝えします。

ごっこ遊びは、見立て遊び（積み木を車に見立てるなど）に始まり、3歳頃からごっこ遊びやままごっこが始まります。目の前にあるものをそれ以外のものに見立てて、何かの「ふり」をする表象遊びの過程を得て発達する「ごっこ遊び」の特徴の一つに他者との関りがあります。子どもたちはそれぞれの役になりきり、複数の友達と一緒にふるまうことで、社会性やコミュニケーション能力、言語能力などを身に付けていきます。具体的に言うと、他者の視点で物事を考えたり、自分のことを客観的にみることができるようになったり、「これは〇〇ということにしようね。」など互いに共通のイメージで遊びを進めていくことが楽しいという点では、自分の思いを伝えることができるようになったり、友達と協調性をもって遊びを進めていったりする力も付いてきます。また、言葉のやり取りで遊びが進んでいくことから、言語力が身に付き、様々な表現方法を通して自分を表していくことで、表現力も身に付きます。何かの役になりきって動いたり発言したりする点では、状況に応じて対応を変化させるなど知的発達も促されます。様々な場面設定をすることで、豊かな発想が育まれたり、社会のルールを疑似的に学んだりすることもできます。また、遊びの中で、自分の役割というものを意識しながら遊びを進めていく点では、生活上の役割意識をもつこともできます。そして、このようなごっこ遊びに繰り返し取り組む中で他者（友達）との関係も深まります。その他にも積み木を使って遊びに必要な場づくりをする過程では、積み木を平行に積んだり、同じ高さに積んで板を渡したり等することで構成力が付き、遊びに必要なものを空き箱や空き容器、様々な素材や材料を使って試行錯誤しながら自分で作ることで思考力も高まります。ごっこ遊びの中での学びはとて多く、その学びが生きる基礎となる力になっていきます。このように見てみると、ごっこ遊びは、とても奥の深い素敵な遊びだということが分かります。

しかし、このような学びは、自然に身に付くものではありません。高円寺北子供園では、子どもたち一人ひとりの実態や課題を踏まえ、遊びの流れや滞り、友達関係等を的確に読み取りながら環境を整え、見守ったり、仲介に入ったり、子どもたちのひらめきを形にするために何を使ってどのように実現していくか一緒に考えたり等必要な時に必要な援助をして、「楽しい」「おもしろい」と感じられるごっこ遊びの中でこのような学びを子どもたちが自ら掴み取ることができるようにしています。



《6月の保育》

★3歳児 うさぎ組

園での生活に慣れ、朝の身支度など、自分でできることが増えてきました。やりたい遊びを見つけて自分から進んで遊ぶようになり、「こんなことがやりたい」「こんなものをつくりたい」と保育者に主張して、自分のやりたい遊びを実現させていくようになりました。ウレタン積み木を使って遊びの場を作ることも楽しめるようになり、迷路、乗り物、家、ステージなどをつくり、そこで遊ぶことも楽しんで行っています。また、学級では『しゅりけんにんじゃ』のリズム遊びを楽しんで行っており、好きな遊びの中でも手裏剣をつくったり忍者になりきって走ったりする姿が見られています。

今月は、保育者や周りの子と一緒に作った場で遊んだり、伸び伸びと体を動かしたりする楽しさを感じられるようにしていきます。下旬から始まる水遊びでは、一人ひとりのペースで水に親しみ、水の冷たさや心地よさを感じながら、水遊びを楽しめるようにしていきます。

★4歳児 くま組

中型積み木を使って場づくりをしたり、製作コーナーにあるものを組み合わせてつくったイヌやネコ等のペットや食べ物をつくったりし、遊びに必要なものを自分なりに考えて使う楽しさを味わっています。

また、天気の良い日は学級のみんなで園庭に出て、バッタと鳥のイメージで動く『助け鬼』を行っています。助け鬼を通し、思い切り体を動かす心地よさや、友達を助けたり、友達に助けられたりする嬉しさを感じているようです。

今月は、好きな遊びや学級のみんなでする活動の中でいろいろな友達と触れ合ったり、関わったりして遊ぶ楽しさを十分に感じられるようにしていきます。

下旬からは、水遊びが始まります。水を使ったいろいろな遊びを楽しみながら少しずつ水に慣れ、心地よさや開放感を味わえるようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

大型積み木を使って、友達と一緒にやりとりをしながら場をつくったり、つくった場でごっこ遊びをしたりすることを繰り返し楽しんでいます。その中で、「こうしたらどう?」「〇〇をつくろうよ!」等、自分の思いを言葉にして友達に伝えようとする姿が増えていきます。

今月は、井の頭自然文化園での共通体験を生かし、遠足を再現して遊ぶ中で、友達と共通のめあてに向かって遊びを進める楽しさや、友達と一緒にだからこそできた嬉しさを十分に味わえるようにしていきます。

下旬からは、プール活動が始まります。水で遊ぶ開放感を十分に味わい、水の中で伸び伸びと体を動かして遊ぶことを楽しみながら、少しずつ泳ぐことにも挑戦できるようにしていきます。